

実践報告資料

研究テーマ『全ての生徒が安心して生活できる学校づくり～生徒の実態に応じた指導の充実～』

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】

学校名（尼崎市立小田北中学校）

<p>ア 人権教育としてのねらい ありのままの自分を受け入れ、自己の存在の大切さに気付く。さらに、他の人の大切さも認め、互いの違いを受容し、思いや考え方を理解しながら、望ましい人間関係を構築する。</p>				
<p>イ 研究の概要</p> <p>① 全ての生徒が安心して過ごすことのできる場の設計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内整備及び校内別室の経営と組織的運営 ・校則の不断の見直し <p>② 将来を切り拓くための学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進部と協働した学力向上への取組 <p>③ 他者への理解を深める人権教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験学習（デートDV、多文化共生教育等）や福祉学習（障害者理解、高齢者理解等）の再構築 				
教科等	各教科（社会科）	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動
指導者	3学年教員 推進教員	2学年教員 推進教員	2学年教員 推進教員・養護教諭	全教職員
実施日	2月25日	12月9日・24日	1月15日	5月19日
取組名	拉致問題と人権	国際化と日本	デートDVについて	SNSとの「つきあい方」
目 標	「拉致問題」が人権課題の一つであることを理解し、人権課題の解決に向けて一人ひとりが関心を持ち考えることの大切さを認識する。	日本に暮らすあらゆる人が、違いを認め合いながら共に生きていく「多文化共生社会」をつくらうとする意欲を高める。	「お互いを大切にす関係」とはどのようなものか、考えを深める。	インターネットやSNSについての知識を深め、健全で適切なコミュニケーション能力を養う。
資料名	アニメ「めぐみ」（拉致問題対策本部）	「声を聴こう」『きらめき』（県教育委員会）	/	「あなたならどうする？」『きらめき』（県教育委員会）
指導内容や指導方法の工夫等	一人ひとりが「拉致問題」に関心をもつことが、「拉致問題」の風化を防ぎ、拉致被害者家族の支えになり、「拉致問題」の解決の後押しとなることを理解する。 あらゆる人権課題に対して、見て見ぬふりをするのではなく、自ら人権課題の解決に向けて行動することがよりよい社会につながることを確認する。	日本で暮らす外国にルーツをもつ人々は年々増加しており、それらの人々と出会うことが日常となっている。本校においても、外国にルーツをもつ生徒がおり、日々共に生活をしている。 国籍に関係なく、同じ「生活者」として外国人の立場を尊重し、多文化共生社会の一員としての自覚を深める。	尼崎市女性センター・トレピエより講師を招き、専門的な知見に基づいた「デートDVの現状」「DVの構造」についての講演を聴講し、適切な関係性について考えを深める。 また、「お互いを大切にしない／大切にす会話」のロールプレイングを通して、他者とのコミュニケーションについての理解を深める。	SNSトラブルや犯罪に巻き込まれないよう、自らの身を守る方法について考えを深め、健全で適切なコミュニケーション能力を身に付ける。 また、県警察本部の講師による講演を聴講し、インターネットやSNSに関する知識を深め、その危険性や注意点、ルールやマナーを理解する。（県警の講師派遣は5月22日。）